カフェ・オ・レ

伊藤貴晴　作

【登場人物】

 男

 女

 アパートの四階の一室。男がベッドで寝ている。女が窓の外に現れる。

女 とんとんとん

 男は起きない。

女 とんとんとん。いませんか？

 男は起き上がり、窓を見る。

女 とんとんとん。開けて下さい

男 誰？

女 私

男 誰？

女 開けて

 男はカーテンを閉めてベッドに横になる。

女 ちょっと、ひどいよ。何で閉めるのよ

男 誰だよお前

女 開けて

男 誰だって聞いてんだろが

女 開けてよ

男 申請は却下します

女 開けなさいよ。でないとこの窓叩き割るわよ

 男はカーテンを開け、窓の鍵を開ける。女が入ってきて椅子に座る。

女 お腹空いた

男 お前誰だ？

女 お腹空いた

男 変な名前

女 そんな名前じゃないよ

男 じゃあ何だよ？

女 何か食べさせてよ

男 何にもねぇよ

女 じゃあ飲み物

男 水でいいか？

女 温かいのがいい

男 お湯か

女 味がついてる方がいい

男 コーヒーでいいか？

女 コーヒー嫌い

男 じゃあ飲むな

女 他に何かないの？

男 牛乳

女 牛乳嫌い

男 出て行け

女 カフェオレにして

男 コーヒーも牛乳も嫌いなんだろ？

女 カフェオレは好き

男 コーヒー牛乳か

女 カフェオレ

男、退場。女はＣＤプレーヤーのスイッチを入れ、窓の外を眺める。しばらくして男がコップを二つ持って戻ってくる。

女 海が見えるね

男 ああ

女 いい眺めだね

男 ああ

女 これ誰の曲？

男 junior size

女 知らない

男 だろうな

 男はコーヒーを、女はカフェオレを飲む。

女 おいしい

男 そうか？

女 うん。こんなおいしいの初めてかも

男 インスタントだよ

女 うん

男 コーヒー嫌いなんだろ？

女 うん、おいしい

男 そりゃどうも。でさ

女 何？

男 あんた何者？

女 えへへ

男 何だよ気持ち悪いな

女 嬉しいでしょ

男 は？

女 突然、こんな可愛いコが部屋にやってきて

男 意味が分からんぞ

女 何よ、私が可愛くないって言いたいの？

男 そうじゃなくて

女 じゃあ何よ？

男 あ、でも、そういうことなんだけど

女 ん？

男 俺が言いたいのはさ

女 ちょっと待って

男 お前は一体何なんだって

女 ちょっと待ってって言ってるでしょ。私が可愛くないって言いたいの？

男 そうだよ

女 帰る

男 帰れ

女 これ飲んでから

男 帰れよ

女 もったいないでしょ

男 さっさと飲めよ

女 猫舌なの

男 あんた、何しに来たの？

女 何をしに？

男 ああ

女 内緒

男 おい

女 女はね、秘密があった方が魅力的なのよ

男 へぇ

女 謎の少女みたいで格好良くない？

男 良くない

女 格好良いって言ってよ

男 嫌だ。大体、少女って年か？

女 それ、ひどくない？

男 いくつだよ

女 レディに年を聞くのは失礼だぞ

男 黙れ

女 心は十四歳

男 体は四十歳

女 違う

男 確かに謎は謎だけどな。全くもって正体不明だ

女 そうかな？

男 謎の少女って自分で言ったんだろ

女 そうだよ、少女だよ

男 そこを肯定するな

女 何でよ

男 名前は？

女 内緒

男 職業は？

女 内緒

男 住所は？

女 秘密

男 ホームレスか？

女 違います

男 何で教えないんだよ

女 秘密なの。スリーサイズも秘密だからね

男 それは聞いてない

女 何よ、脱いだらすごいんだから

男 どうすごいんだ。爆発したりするのか？

女 違うよ。何だと思ってるの？

男 分からないから聞いてんだろが

女 お互いのことは話してるうちに段々分かってくるんだから

男 何にも分かんねぇよ

女 そんなことないよ。人間性っていうのは会話の中に見えるんだから

男 人間性ねぇ……お前、人間か？

女 当たり前じゃない。何だと思ってるの？

男 確認だよ

女 ふーん

男 お腹が空いてるんだろ？

女 うん

男 んで、食べ物を恵んでもらいにここへ。ホームレスか？

女 違います

男 コーヒーが嫌いなんだろ？

女 うん

男 牛乳も嫌いなんだろ？

女 うん

男 好き嫌いが多いと大きくなれませんよ

女 ほっといて

男 後、分かるのは、我が侭で傍若無人で猫舌で妄想癖があって非常に自己中心的で自分勝手で我が侭だってことかな

女 何で我が侭って２回言ったの？

男 わざとだよ

女 私そんなに我が侭じゃないよ

男 黙れ我が侭娘

女 性格悪い

男 よく言われる

女 あーあ、何だかなぁ

男 何だよ？

女 もっとロマンチックな展開になるはずだったのに

男 は？

女 謎の少女がね、海の見えるベランダに降り立ってそっと窓を叩くの

男 アホか

女 アホじゃないよ

男 そういえばお前

女 なのに窓開けてくれないしさ

男 何で開けなきゃいけないんだよ

女 どうしてカーテン閉めたのさ

男 閉めた方がいいと思ったんだよ

女 やめてよ

男 開けたろ

女 散々お願いしてやっと開けてくれたんじゃない

男 あれは脅迫って言うんだ

女 だってあそこで開けてくれなかったら私どうしたらいいのさ

男 帰って飯食って寝ろよ

女 何よ、冷たいわね

男 それよりさ

女 ん？

男 ここ四階なんだけど

女 うん、眺めいいよね

男 あんたベランダにいたよな？

女 うん

男 どうやって登ったんだ？

女 登ったんじゃないよ

男 じゃ、どうしたんだよ

女 飛んだ

男 は？

女 飛んできた

男 さて、とりあえず病院行くか？

女 いえ、お構いなく

男 じゃ警察呼ぼうか

女 無駄よ、電話線切ったから

男 ……

女 冗談よ

男 冗談に聞こえないんだよ

女 やだな、私がそんなことするように見える？

男 見える

女 えー、そんな犯罪者じゃないんだからさ

男 不法侵入

女 許可は得たもん。入れてもらったんだもん

男 脅迫

女 違うよ。それに携帯あるから大丈夫だよ

男 そういう問題か？

女 妨害電波流してるけどね

男 ……

女 冗談よ

男 冗談に聞こえないんだよ

女 そんな風に見えないでしょ？

男 見える

女 何でよ

男 怪しいんだよ

女 どこが？

男 全部

女 全部？

男 言動、行動。あと顔

女 顔？

男 お前は犯罪者顔だ

女 すっごい失礼

男 大体おかしいだろ。いきなり他人の家に上がりこんで理由も何も言わないで

女 えっと、それは

男 しかも飛んできたとか言ってさ。本当に警察呼ぶぞ

女 何よ、さっきから聞いてれば勝手なことばっかり言って。最低ね

男 何で初対面の奴に最低呼ばわりされなきゃいけないんだよ

女 ひどいこと言うからでしょ

男 お前が何にも言わないからだろ

女 それでもちょっとは気を遣いなさいよ。可愛くないって言われたら落ち込むじゃない

男 何でその話になるんだよ

女 それが一番傷ついたの

男 傷ついたように見えないんだよ

女 傷ついたの。私の心は海の底深くに沈んでいったの

男 そのまま溺れて死んでしまえ

女 何でそんなひどいことばっかり言うのよ

男 お前が俺の話聞かないからだろ。俺は

女 うるさい！

 間。

女 カフェオレおかわり

男はコップを持って退場。女は本を読む。しばらくして男はまたコップを持って戻ってくる。

男 はい

女 ……

男 あのさ、確かに言い過ぎた

女 ……

男 悪い。でもさ、少しは自分のことも話せよ。いきなり知らない奴が来たら怪しいと思うだろ？機嫌直せよ。ごめんな。……何とか言えよ

 女は黙ったまま。男は仕方なくコーヒーを飲む。やがて女は笑い出す。

女 何これおもしろい

男 やっぱりお前最低だな

女 この本貸して

男 いつ返すんだよ

女 じゃあちょうだい

男 ダメ

女 残念

男 変な奴

女 何が？

男 何でもない

女 ふーん

男 何かどうでもよくなってきた

女 何が？

男 お前のこと

女 どうでもいいとか言わないでよ

男 前向きな意見だよ

女 そう？

男 そう

女 迷惑だった？

男 そういう問題じゃないんだけど

女 迷惑だったら帰るよ

男 だから迷惑とかそうじゃないかとかは置いといて

女 迷惑？

男 迷惑じゃないよ、別に

女 本当？

男 ただ、あんた何なの？

女 謎の少女

 男はため息をつく。

女 そんな気にすることじゃないじゃん

男 気になるんだよ

女 今度話すね

男 今度？

女 また来る

男 また来るのか

女 カフェオレおいしかったもん

男 もう一杯飲むか？

女 ううん、今はいい

男は自分のコップを持って退場。女は窓を開け、ベランダから飛ぶ。しばらくして男が戻ってくる。男は女がいないのに気づき、ベランダに出て外を眺め、部屋に戻って椅子に座りコーヒーを飲む。

 終わり。